



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol.17 No. 4 2016年 12月

鷺の宮卓話

「夢を歌おう」

研究所理事長 太田敬雄

高校時代、私は一つの大きな「夢」と出会いました。恩師、小原国芳先生の夢です。玉川学園を創設された小原先生は毎週の礼拝の時間に彼の夢を語り続けられました。それは教育の夢でした。その夢のスケールの大きさに圧倒された思いは今も忘れません。その夢に触発されて私は教師になる決意を固めたのでした。

留学中のアメリカでは Martin Luther King 牧師の「I have a dream.」で有名なスピーチに血が騒ぎました。異なる民族の人たちと共に生活する中で知った、キング牧師の夢。人種の壁を超えて手に手を取り合って新しい世界を作ろうというキング牧師の夢は私の心に深く刻まれ、いつかそのために何か出来ればという私の夢の一端となりました。



二人の偉人たちの夢は私の中で一つにまとまり新しい夢となりました。彼らの夢はそれぞれの国境という枠の中での夢でした。小原先生は日本の教育の革新を夢見ていましたし、キング牧師はアメリカの人種差別の撤退を夢見ていました。二人とも夢の実現を見ることもなく他界されました。パウロ風に（新約聖書「ヘブライ人への手紙」11:13）言えば、この人たちは、夢を抱いて死にました。夢の実現は手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげていました。

国際比較文化研究所設立の折に掲げた私の夢「相互理解に基づいた、豊かで平和な地球社会を創るために」は、二人の偉人さえも考えなかった世界規模の夢です。それこそ「夢のまた夢」と一笑に伏されてしまうような夢です。自分では実現することの有りえない夢です。けれどもこの夢を次の世代に引き継ぐことができます。

「夢を歌おう」は今年の NHK 紅白歌合戦のテーマですが、それはまた今日の私のテーマでもあります。「まなばる」が、「多文化交流」プログラムが、「ぐんまカップ」がそれぞれの形で夢を歌っています。このテーマが一人でも多くの人々のテーマとなり、それぞれのパートを歌って合唱となり世界に響いていきますように。その歌声が平和な地球を創るためのエネルギーになっていきます。読者のお一人お一人がこの歌を口ずさんでくださることを願っています。



第2回ぐんまカップ日本語コンテスト in インドネシア

【第2回ぐんまカップ】日本語コンテストを開催しました

『ぐんまカップとは、国内外の学生に多文化交流の場を提供。
韓国とインドネシアで日本語を学ぶ学生を対象に現地でエッセイとスピーチの日本語コンテストを開催。
その上位入賞者を日本・群馬に招待し約10日間寝食を伴いしながら交流を行うプロジェクト。』

*第2回ぐんまカップ日本語コンテスト概要

11月12日-13日にインドネシア、26日-27日に韓国にて

第2回ぐんまカップ日本語エッセイ&スピーチコンテストが無事開催されましたことをご報告いたします。

<日本語コンテスト IN インドネシア>

【日時】

2016年11月12日 9:00~11:00

2016年11月13日 9:00~14:00

【場所】

ブラウィジャヤ大学

【参加者】

・応募者総数：43人

・本選出場者：20人

【エッセイテーマ】

「あなたはどんなひとですか」

【入賞者】

・群馬県知事賞[3位]

…Fenty Shofiah Rodhila (ブラウィジャヤ大学)

・糸井商事賞[2位]

…Benny Wijaya (ABA-Yapari 外国語大学)

・峠の釜めしおぎのや賞[3位]

…Yesi Aprilia (ガジャマダ大学)

【協力】

ブラウィジャヤ大学

【現地スタッフ】

アグン・マンガラ・プトラ、リドワン・イクサニ、

マシタ・ザルザ、ズリアト・メイ

ワユ・チャーヤニングルム、リズキー・フィトリアニ、

ソニヤ・ベリンダ・スニヤヂィ

【現地審査員】

吉行巧、戸田良平、笠井祥太、高妻千鶴

*当日にはブラウィジャヤ大学の学生、インドネシアに留学している現地の日本人学生にもお手伝いをいただきました。



<日本語コンテスト IN 韓国>

【日時】

2016年11月26日 9:00~11:00

2016年11月27日 9:00~13:30

【場所】

釜山外国語大学

【参加者】

・応募者総数：16人

・本選出場者：16人

【エッセイテーマ】

「あなたの生き方で一番大切にしていることは何ですか」

【入賞者】

・群馬県知事賞[1位]

…ソン・ジョンヒョン (東義大学)

・安中市長賞[2位]

…ナム・ヨンジュン (大邱カトリック大学)

・糸井商事賞[3位]

…キム・ジェホン (釜山外国語大学)

【共催】

・釜山韓日交流センター

・釜山外国語大学日本語創意融合学部 J-BIT スマート融合事業団

【現地スタッフ】

イ・サンファ、パク・ジュヒョン

【スピーチコンテスト現地審査員】

佐々木唯、坂本みずき

*当日には、釜山外国語大学の学生にもお手伝いをいただきました。



*第2回ぐんまカップ日本語コンテストを終えて
ぐんまカップ日本語コンテスト責任者 木村七海



2度目のインドネシア開催は、非常に楽しかったです。

前回の招聘生もスタッフに加わり、もう慣れ親しんだ顔ぶれが揃い、コンテスト実施は不安よりも、遂に開催するんだという楽しさがだいぶ上回りました。それも前回に続き、会場提供並びにぐんまカップインドネシア学生チームを結成してくれたブラウィジャヤ大学の方々の協力のお陰です。企画準備の段階からコンテスト当日と幾度となく助けられました。

インドネシアでは全部で42名の応募があり、予選では20名が通過しました。エッセイのテーマは、「あなたはどんなひとですか?」でした。出場する学生のレベルがさらに上がり、非常に質の高いコンテストとなりました。

今回もぐんまカップをきっかけに、多くの人とつながりました。各スタッフメンバー自身も、昨年度の立ち上げから在籍したメンバーは一人もおらず、全てが手探りでコンテスト作りでした。その中で、大学の関係者の方々、各国領事館の方々、外部スタッフとして協力して下さった留学中の日本人大学生の方々、現地の学生スタッフの方々が快く協力して下さいました。この場を借りて感謝申し上げます。

そして、ぐんまカップで関わった皆さんが、自然とお別れの際に「バイバイ」だけではなく、「また逢いましょう」と言ってくれたことが何より嬉しかったです。コンテストというツールを通して、国境性別宗教を超えて、同じ目線で、「また逢いたい」という関係づくりができたスタッフ一同、達成感を感じております。

インドネシア・韓国ともに、非常に学びの多いコンテスト開催となりました。日本語コンテスト責任者を担当し、非常に幸せな時間を過ごすことができました。感謝申し上げます。ありがとうございました。

ぐんまカップはまだまだ続きますので、引き続きよろしくお願い致します。

第2回ぐんまカップ日本語コンテスト IN 韓国を終えて
第2回ぐんまカップ副代表 明治大学3年 藤本恵大

初めて韓国でも日本語コンテストを開催する、という話を聞いたときに頭を抱えたのが去年の11月頃でした。「第2回ぐんまカップではインドネシアに加え韓国を追加し2か国開催にする」ということは、単純に開催費用も倍近くになるだろうし、まして経験が浅い私たちにそんなチャレンジが務まるのか、そんな不安しか感じることがありませんでした。結局私は副代表という立場にありながら最後までその不安を取り除くことができませんでした。しかし、今私が思うことは韓国で日本語コンテストを開催して本当に良かったという事です。今回は何故その様に思えるようになったかという事を個人的な思いも含めながらお話しさせていただきます。

11月26日、27日韓国釜山市にある釜山外国語大学にて私たち第2回ぐんまカップは日本語コンテストを開催し、無事に2月に招聘する3名を選出しました。直前まで会場選びで苦戦したり応募数が伸び悩むなど、「なんとかこぎつけた」という表現がふさわしいような幕明けでした。そのようなこともあってか、私はどうしても運営という立場を重視して日本語コンテストに携わっていました。

先に日本語コンテストを開催したインドネシアと違い、韓国では参加者の半分近くが日本に来たことがある方でした。大学生がバイト代を貯めて簡単にいくことができるくらい身近な両国、それは当たり前なことなのかもしれません。そんなこともあってか、ひととき日本人の同世代の友達が欲しいと強い思いを持った参加者の方が多くいらっしゃいました。そんな皆さんと一緒に話したり昼食を共にしている間に、日本語コンテストを無事に終わらせることに固執した結果忘れていた、友達を作る楽しさ、喜びを私は再び思い出すことができました。

ぐんまカップでは関わってくださった皆様が「また会いたい」と思える関係を築くことを何より大事にしています。私はその一番大事にしてきたことすら忘れ、一人楽しむこともできず、何のためにスタッフをしているのかも分からず一人途方に暮れていました。そんな僕を救ってくれたのは韓国で出会った一人一人の参加者たちでした。みんなと会えたから私は初心を思い出し、そしてまた副代表としてみんなとぐんまカップを作りたいという思いもまた思い出させてくれました。

これからぐんまカップは最終段階の招聘プログラムへと移ります。しかし、まずはここまでたどり着けたことをこの場を借りて皆様にお礼申し上げたいと思います。いつも応援していただき本当にありがとうございます。招聘プログラムは来年2017年2月14日から24日を現在予定しております。お時間がもしよろしければぜひ様子を見にでもお越しいただければ幸いです。ぐんまカップはこれからがラストスパートです。私たちの活動はFacebook等でもお知らせしております。もし興味等ございましたらぜひご覧ください。今後とも暖かい応援をどうぞよろしくお願い致します

ホストファミリー募集！

【ホームステイ詳細】

ぐんまカップの招聘プログラムではホームステイを実施します。
海外からの学生を受け入れてくれるホストファミリーを募集しています！
海外からの学生たちと群馬県で最初の家族になりませんか？
日本語がとても上手な子ばかりなので言葉の壁は心配ありません^^

<日程>

2/19(日)～2/20(月)

2/19は15:00に安中駅に迎えに来ていただき

2/20は20:00に高崎駅に集合予定です

<海外からの学生>

- ・インドネシア(女の子2人/男の子1人)
- ・韓国(女の子1人/男の子2人)

<申し込み先>

ご質問などあれば気軽にご連絡ください♪
Mail:gunma.cup@gmail.com

<お申込みの際の記入事項>

- ①お名前
- ②ご連絡先(PCアドレス)
- ③家族構成
- ④希望の国籍・性別の学生

※可能な限り対応させていただきます。



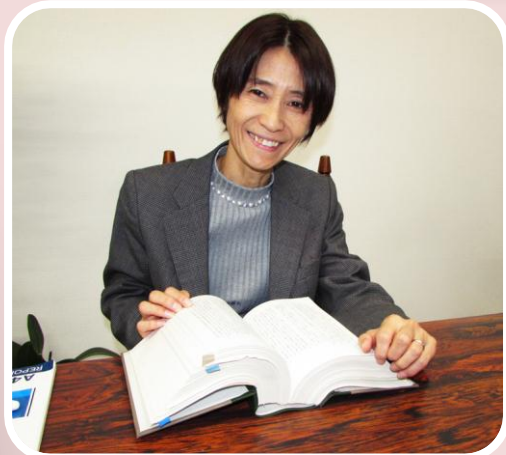
インドネシアの入賞者のみなさん



韓国の入賞者のみなさん

おさかけいこ 小坂景子先生

安中法律事務所オープン



研究所の会員である
弁護士の小坂景子先生が、
2016年9月1日、群馬県安中市に
「安中法律事務所」を開設しました。

2012年5月にまなばるXDで対談形式の講演をしてくださった小坂景子先生。弁護士になろうと思った理由や、それまでの経緯などを語ってくださいました。そのときに「いつか安中に事務所を開きたいです」と話されていたのです。まさに有言実行。でも、ここまでの道のりは長く険しかったのです。

小坂先生は弁護士としては変わった経歴をお持ちです。兵庫県のご出身で、大学では教育学部を卒業されました。3年間ほど重度心身障害者の養護学校で教員を務め、その後は有機野菜等の流通会社で営業部門とシステム開発を担当。退社後、農業を行うために約1年間、茨城県で有機農業の研修を受けました。

農業の研修が終わり、新規就農の場所を見つけるときは、群馬県だけではなく、ほかの県にも見学に行きましたが、好意的なのは群馬県だけだったそうです。小坂先生は「富岡製糸場もある群馬は、外からの人を受け入れる土壤があると思いました」と当時を振り返ります。小坂家の新規就農の地は群馬県に決定。それまでは群馬には住んだことがありませんでしたが、ご夫婦で高崎市倉渕町に移り住み、ご主人と力を合わせて有機野菜を作り始めたのです。

小坂先生は常に「社会が良くなるように、自分が出来ることをしたい」との思いを抱いておられます。これまで様々な職業に就かれたのは、その思いを仕事で成し遂げたかったから。群馬での農業は軌道に乗っていましたが、もっと社会の役に立ちたいとの思いが強くなり、高いハードルは承知の上で、弁護士になろうと決断しました。

そのとき小坂先生は30代後半。保育園で年長クラスのお子さんもいらっしゃいました。年齢のこと、家庭のこと…この状況の中で、自分の思いを成し遂げようとするのは、至難の技だったはずですが、でも、ご主人の深い理解もあり、小坂先生は弁護士になるための勉強を始め、目標に向かって突き進みます。小坂先生は法学部を卒業していないため、弁護士になるための勉強はゼロからのスタート。それから約10年間もの間、猛勉強してきました。

若い学生と一緒に東京のロースクールにも2年ほど通い、毎日必死に勉強してきた小坂先生は、見事に司法試験に合格！合格はご本人の努力の賜ですが、ご家族の理解と支えがあったからこそ、実現出来たと言えます。そして、高崎市の弁護士事務所で5年ほど経験を積み、2016年9月、独立して「安中法律事務所」をオープン。

お子さんが小さいとき、小坂先生には司法試験の勉強があったため、お子さんと過ごす時間があまり持てなかったそうです。ロースクールに通学していたときは東京で下宿生活。ようやく家に戻ってきたときはお子さんは中学生だったそうです。「今になれば、子どもが小さいときに、もっと子どもと一緒に過ごせば良かったかな。」と話されています。現在、お子さんは自宅を出て、県外の大学に通っているそうですが、お子さんが帰宅するときは、食事したり会話したり、充実した親子の時間を過ごされています。

小坂家では、お子さんが幼い頃に家族みんなで過ごした時間は短いかもしれませんが、でも、小坂先生の壮大な夢を本気で応援するご家族の存在が、小坂家が深い絆で結ばれていることを証明しています。

小坂先生から会員の皆様へメッセージです。

「弁護士に相談というご敬遠されがちですが、ご心配なことがおありでしたら、早い段階でお気軽にご相談いただければと思っています。」

同期の弁護士は30代が多い中、50代の小坂先生は弁護士として遅咲きのスタート。これまでに会社員や農業の職歴を重ね、結婚や出産、育児なども経験されています。豊富な人生経験は、お仕事に活かされます。相談者の心の痛みに真摯に耳を傾ける、人間味あふれる小坂先生の今後の活躍にご注目ください。

(取材：狩野真由美)

安中法律事務所

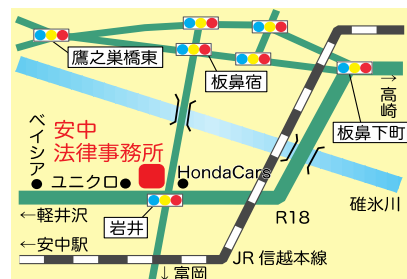
住所/群馬県安中市岩井2470-3戸田ビル1F西

(ビジネスホテル KAWA1F)

お問い合わせ/☎027-386-6667

受付時間/9:00~18:00

定休日/土曜日、日曜日、祝日



Manapa まなぱる 通信

「子供たち」と「地域」により多くの「学びと経験の場」を。
まなぱるはNPO法人国際比較文化研究所が運営する
多目的教育施設です。

キッズ英語・英会話

日本の英語教育は大きな転換期を迎えていますね！大学受験に4技能（読・書・聞・話）が導入されるようになり、ここ数年で義務教育や高校での英語教育も大きく変化していくことでしょう。まなぱるキッズは開設当初から4技能を大切に、そして言葉や異文化を「楽しむ」ことに重点を置いてレッスンをしています。学校の勉強も、広い世界の中のひとりとしての人生も、めいっぱい楽しめよう！そんな願いをこめて、来年度からはレッスン内容もグレードアップ！明日、何が咲くか。子どもたちの心と知能の成長が今後も楽しみです☆

まなぱる中学部

中学部では英語・数学・国語・理科・社会と5教科指導をしています。先生たちは生徒たちひとりひとりを大事にしてくれて、丁寧に教えてくれています。そして心に種を蒔いてくれています。その思いは伝わっているのかな？受験期の3年生は大人数！夏期以上に冬期講習は長時間レッスンとなりますが、年が明ければすぐ受験。生徒たち&先生たち、みんなで一緒にがんばります！



イベント関係

秋はイベントがもりだくさん！昨年、まなぱるのイベントから地域のイベントに発展した「ハロウィン大作戦！」をはじめ、もりのまつり、あんな祭り、フリーマーケット in 安中・・・キッズたちや中高生・卒業生たち・IIMS 学生たちが各地で大活躍でした！もりのまつりでは「The Very Hungry Caterpillar(はらぺこあおむし)」を、キッズたちが大勢のお客さんの前で英語朗読！緊張したと思うけど、とっても上手にできました♪また、今年のハロウィン大作戦は磯部温泉街で開催。申込み開始初日に300の定員がほぼ埋まってしまうような大イベントに成長しました。温泉街の皆さんの情熱や温もりに触れて、誰よりも実施している自分たちが多くを学ばせてもらえるイベントでした。

大きくなったキッズたち

初期のまなぱるキッズたちも、上はもう高校3年生。高卒後の進路や就職が決定した卒業生たちもいて、英語で上を目指す子もいます。昔はキッズイベントに参加していた生徒たちが、中高生となりイベントの手伝いに来てくれたり。他の友だちも連れてきて、新たな「つながり」や「経験の機会」を作ってくれます。つながりや経験は、人生の選択肢を増やし、彼らの未来をぐーんと広げてくれます。いったいどんな未来がまっているのか。やがて多文化交流やぐんまカップで、彼らが活躍してくれる日も来るかも知れませんね♪



多文化交流 in ぐんま 2017 冬

2017 年 2 月 17 日(金)
～2 月 19 日(日)

★多文化交流とは★
信頼しあえる友達が世界にいたら、その国がその文化がもつと身近になる。お互いを想う気持ちが平和な地球社会に繋がる。「多文化交流」はそんな友達ができる場です。数日のプログラムでも密度の濃い交流ができ、深い友情をはぐむことができます。日本が好きで日本語を勉強している各国の皆さんと、日本語での交流になります。異文化ではなく「多文化」に触れてみる。違うからこそその良さに魅了される。違うからこそ友達になる。多文化交流は参加者の皆さんと一緒に作り上げるプログラムです。



高崎経済大学 3 年
根岸大輔

こんにちは、はじめまして。ニューズレターには初登場です。今回「多文化交流 in ぐんま 2017 冬」で共同代表をすることになりましたネギこと根岸大輔です。

毎回新しい出会いがあり、懐かしい再会もある多文化交流。今回は今回の多文化交流を作り、魅力的なプログラムにしていきたいと思っています。振り返ってみると、私が多文化交流 in ぐんま 2014 夏に初めて参加して以来、参加者として 1 回、スタッフとして 3 回多文化交流に関わらせてもらっています。海外の友人を作りたいとなんとなく参加しただけの多文化交流で様々な国の人とただ交流しただけなのに、今まで感じたことのない楽しさ、おもしろさに気づいてしまってから私の大学生活には多文化交流が欠かせないものになっていました。「やはり多文化っておもしろい」久しぶりのスタッフで懐かしい気持ちもあり当日が楽しみな気持ちもあり今からワクワクしています。

そして今回はぐんまカップからの招聘が決まっており、インドネシアと韓国の学生も多文化交流に参加してくれることが決まっています。私は韓国で行われた日本語のスピーチ・エッセイコンテストで審査員として関わることができ、直接現地にいる学生と接し、さまざまな思いや熱意を感じることができました。招聘組のみなにも日本で多文化交流に参加できてよかった、一生ものの友達ができたとってもらえるきっかけの一つに多文化交流がなれたらいいなと思っています。

そして今回の多文化交流のテーマは「～みんなつながれ～君がつくる架け橋」。やはり多文化交流の最大の魅力といえば「つながる」ということだと思います。新しい人と出会い、その場だけでなくこれからつながり続けるような関係が作れる場、なかなか貴重な場所だと思います。そしてそれが私を多文化中毒者にした原因です。私は今回の多文化交流が参加者やスタッフみんなにこの魅力を感じてもらい、それぞれみんなが新しい関係を築き繋がるきっかけになることを願っています。

まだまだ取り組むべきことはたくさんありますが、スタッフみんなで今回のメンバーらしいプログラムを作り上げていきたいと思っています。そして当日、参加者とともに「交流」を楽しみたいと思います。

～みんなつながれ！～

君がつくる架け橋



★多文化 Facebook★

<https://www.facebook.com/tabunka.gunma>

★多文化 Twitter★

@tabunka_gunma

ちいきづくり交流会 in 安中



地域づくりについて語った交流会

安中 地域づくり5団体
運営、活性化を討論
県地域づくり団体研
修交流会in安中が2
日、安中市松井田文化
会館を主会場に開かれた。市
内5団体の代表がそれぞれの
視点から地域づくり、組織運
営などを語り、約100人が
耳を傾けた。
デイスカッションでは、団
体代表が資金繰りや人集め、
地域のにぎわい創出などをテ
ーマに自由に発言。コーディネーターの茂木英子市長は「市民や専門家、行政など地域全体の『総動』でないと進まない。どのような応援が必要か、行政にもとんどん相談してほしい」と呼び掛けた。
市内視察も行われ、参加者は国指定重要文化財「碓氷第三橋梁」（めがね橋）や県指定史跡「碓氷関所跡」を見学し、トロッコ列車に乗車した。

11月に安中で実施された地域づくり交流会に登壇させていただきました。IIMSの活動は（そして私個人の活動も）「人づくり・人つなぎ」で、それは実は時として「地域づくり」の概念と相反することがあります。「今ある環境・与えられた世界で、どう生きるか。」どう幸せを見つけるのか。人とつながり、種を蒔く。私たちにとっての「教育」は、大きくいうとそういったことの手助けです。やもすれば人々の生活の「環境改善」が中核となる「地域づくり」の概念と、ずれてしまうことがあるのですね。地域づくりに真剣に取り組む方々を前に（ビクビクしながら）まずそのことを素直に話して保険を掛けました（笑）会場の皆さん優しく受け入れてくれた…ような気がします。交流会とても楽しかったです。地域の範囲も人それぞれで、居住地からはじまり広義でいえば地球まで。人の成長と繋がりが地域づくりに繋がっていくことを、改めて感じさせてもらえる日でした。お誘いくださった群馬県地域づくり協議会の松本さん（未来塾）や、コーディネーターを務めた茂木市長、一緒に登壇してくださった安中地域の皆様に感謝です。（副所長・太田琢雄）

2016年11月3日（上毛新聞地域欄）

多文化交流 in マラン

まもなく参加者募集スタート！

2017年3月2日（木）～3月10日（金）

インドネシアのマラン市にて
現地学生の企画する、「多文化交流 in マラン」
いつもよりちょっとディープでローカルな国際交流。
行って良かったが盛りだくさん！
この春、素敵な出会いとあらたなつながりを求めて
東南アジアの国インドネシアに行ってみませんか？

使用言語は日本語！

18歳以上ならどなたでも大歓迎！

詳細は Facebook にて近日公開！！

www.facebook.com/tabunka.gunma

お問い合わせは下記へ

tabunka.malang@gmail.com

インドネシアの日常を体感！

南国の海でハートの交流

まさに国境を越えた交流！

日本愛感じるデスカッション☆

会員動向・会費・寄付

会費納入のお願い：「ぐんまカップ」日本語コンテストは11月にインドネシアと韓国で開催され、来年春には6名の入賞者を招聘して交流することになりました。暮れには「多文化交流 in 釜山」、年明けには「多文化交流 in ぐんま」、「多文化交流 in マラン」とそれぞれスタッフが準備を始めています。IIMSはこれからも世界を一つの平和な地球社会にするという大きな夢に向かって努力を続けて参ります。今後も変わらず皆様にお支えいただければ幸いです。

会費は年額2千円です。 ご寄付もありがたく活用させて頂いております。特定の活動へのご寄付も可能です。同封の振込用紙で送金下さい。必ず会費、寄付等のご送金の内容を明確にしてくださいますようお願いいたします。なお、会費を複数回お送りいただいた場合は翌年度の会費として頂戴しています。

会費・寄付・新入会員（2016年10月1日～11月30日）敬称略

<新入会員> 清水久美、櫻井喜久枝、松本宇隆

<会費> 前田申栄、清水久美、高尾善樹、大江士、櫻井喜久枝、中易圭子、松本宇隆、長谷川勝義、鈴木布美子、キャンディ、森泉宏昭、太田知子、水木健一、

<寄付>

○一般寄附 前田申栄、山村日出夫、山村俊幸、鈴木布美子、森泉宏昭、太田知子、村井田和夫、

○寄付（ニューズレター） 篠原節子、黒滝明美、

○ぐんまカップ寄付 キャンディ、

<協賛>

○ぐんまカップ協賛（少々混乱が有りましたので、既にご報告済の分もまとめてご報告させていただきます。）

糸井商事株式会社、株式会社荻野屋、株式会社グローバルゲート、クシダ工業株式会社、株式会社ヨコヤマコーポレーション、株式会社アイテック、三幸機械株式会社、株式会社並木、高崎ロータリークラブ、株式会社ムービングスクワット、有限会社ムラカミ、ナガタ工業、泉司法書士事務所、株式会社ツナシマ、在日本朝鮮群馬支部青年商工会議所、山名八幡宮、牧野ケアサービス、アイ・ウィッシュ株式会社、高崎石材株式会社、株式会社ユタカペイント、木屋木工所。

「多文化参加者忘年会」

12月3日、忘年会。この日は多文化交流参加経験者が集い、プレゼント交換等をして盛り上がりしました。

毎年、2008年～その年の多文化参加者に声をかけ、20～30名程で忘年会を行っています。

多文化交流の時だけの関わりに終わらず、参加世代問わず参加者同士が繋がりが続いているよう、運営側ではなく参加者として、多文化ファンとして、今後もこのような機会を設けていければと思っています。

（企画者：日下浩樹）

和気あいあいと行った
プレゼント交換の様子→



← 非常に濃
く交流を
行った様子

《編集後記》

今回の編集は、かなり冒険をしてみたのではないかと思います。前回の完成度をみて、まだまだだなと思いました。太田先生とも作戦会議をして、色や写真をふんだんに盛り込むことにしました。たくさんのきらきらとした笑顔をお届けできていれば幸いです。

また、多文化忘年会は、学生にとっては社会人のみなさんと密に接しられる数少ない機会のひとつ。毎年多文化マスターの日下さんが企画してくれるこの会を、非常に楽しみにしています。

（文責：中島）

発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

メールアドレス：npo_iims@yahoo.co.jp

まなぼる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

メールアドレス：mail@manapal.jp

郵便振替口座番号：00510-1-61974

加入者名：国際比較文化研究所